

尾張旭市議会議員の定数を定める条例の一部改正について

討論要旨 川村つよし議員

議員定数削減を見直すことについて、市議会ではこの間数回にわたり議会運営委員会などで議論を重ねてきました。これは片渕議長が議長に就任された後、これは議論にすべきだということがありましたので、発言があり、春から予定をされていた日程で行ったものだと受け止めております。

先ほど山下議員から、山下議員の提案によって11月からという話もありましたが、それ以前にスケジュールされていた取組だということをもまず申し上げておきます。

そして議論を重ねてきました。そこでは定数を増やすべきという意見、現状維持という意見、削減という意見、これは先ほどの提案理由の説明の中で御紹介があったとおりですが、そうしたふうに3つに分かれておりました。まとまる様子もなく、現状維持という意見の議員が最も多かったため、今回は現状維持という判断に落ち着いたというのが、およそ議会内の一致点ではないかと思えます。

この経過を思うと、提案された山下議員も花井議員も、この定数削減の提案がどのような結果になるか予測もしていることと思えますと原稿では書きましたが、これも先ほど山下議員が提案理由の中でおっしゃられたとおりでと思います。

今回、定数削減の理由として、提案理由に示されている字句を読み上げますと、「地方における議会改革とコロナ禍における住民負担の軽減並びに本市財政の安定的運営に資するため」とあります。有識者の間では、定数削減は議会改革にならず、逆効果であるとの認識が一般的であり、そのことは今回の議論でも複数の議員からの発言があったことです。提案理由に示された内容は、議論の経過を無視した記述であり、誤りであるとまず指摘をしておかなければなりません。

その上で、住民負担の軽減や本市財政の安定的運営に資するとの提案理由についてですが、この提案理由は、市議会の役割をごく部分的にしか見えない内容だと思います。議員の人数が減ることで、市の金銭的負担の減少につながる可能性はありますが、逆に市の取組を監視する機能は下がります。

3月議会で行われた予算決算特別委員会を傍聴していた議員の間で、どうすればしっかり予算審査ができるかという雑談がありました。以前と比べると、真面目に取り組む議員が増えたという実感が私にはあり、かなり多くの議員が音声を聞くために用意された委員会室の隣に多くの議員が参加しておられました。定数削減を御提案されたお二人の姿を私は見かけたことがありませんでした。この議論は御存じないと思いますが、解決策の一つとして、福祉文教委員会の所管する範囲が広いので、委員会を分割して4常任委員会

としてはどうかという議論がありました。その場合、1 常任委員会につき18名の議員定数では4名または5名、そのうち2名は正副委員長ということになり、質問は抑制的になると考えると、やはり議論が低調になりかねません。定数削減では議論の活性化にはならず、議会の機能は低下するのは間違いないと私は思います。

半年ほど前だったと思いますが、ある部長に議員報酬を下げてでも、定数を増やしたほうがよいのではないかと私の考えを話しますと、いつもはにこやかな対応をしていただけのその部長は、かつて見たこともないような嫌そうな顔をしました。なるほど、市の当局にとって議員が増えるのは一番嫌なのだ大変実感した出来事でした。

今回の定数をどうすべきかとの議論でもお話したのですが、市の財政的負担は議員報酬と議員の人数の掛け算で決まります。人数を増やして、その分報酬を下げれば、市の財政負担は同じで監視の目が増えます。安い報酬でよい人材が集まるかどうかという議論も当然ありますが、尾張旭市よりも議員報酬の安い町村議会の議員にも、立派な活躍をされている方は全国に大勢いますから、報酬の多寡だけが議員の質を決めるものではありません。

私は、多様な市民の意見をできるだけ市政に反映させるためには定数を増やしたいと考えていますし、尾張旭市議会の現状として、議長、副議長、常任委員会委員長などのポストが議員定数の半数を超える状況は、組織として問題があるようにも思いますし、期数の若い議員は、失敗を恐れずに質問に取り組んでほしいと思いますが、1 期目の議員の多くが常任委員会の委員長に就いてしまう現状も正常な組織の状態とは思えません。この間、議員定数を減らし過ぎたのではないのでしょうか。また、直面する課題として、意思決定の場に参加する女性を増やすこと。つまり、市議会では女性議員を増やすことが課題として対応を求められていると思いますが、定数削減はその課題にも逆効果になると思われます。

さらに、定数削減の弊害として、多数派にすり寄る可能性が高くなるのではないのでしょうか。

議員というのは、市政の監視機能を維持しなければなりません。定数が削減され、当選に必要な得票数が増えると、その分多数の票を取っている市長など、多数派によい顔をしたほうが票数の獲得には得策かもしれません。定数削減は、市長におもねる議員が当選しやすい状況をつくり出すことにならないのでしょうか。

幅広い意見を市政に反映させるためには、定数削減は最も有害な方法であると指摘をし、反対討論といたします。